

# 議 会 だ よ り

清水町

2015年(平成27年)8月

No.142

■発行 北海道清水町議会  
 ■編集 清水町議会運営委員会  
 〒089-0192 上川郡清水町南4条2丁目  
 ☎62-3317 FAX62-5160

## 熊牛福祉館改修工事など 補正予算を可決

第3回定例会

第3回定例会は6月16日から23日までの8日間を会期として開かれました。町から行政報告が3件あったほか、条例の一部改正、6会計の補正予算、物品の取得2件、工事請負契約の締結3件、計画の変更、規約の変更等の提案があり、審議の結果、全て原案どおり可決しました。

**定** 例会初日の6月16日に、一般会計補正予算が町より提案され、議会では原案のとおり可決しました。

民生費では、熊牛福祉館が旧熊牛小学校へ移転することに伴う予算の追加提案がありました。改修工事については、



福祉館として活用するため、改修工事を行っている旧熊牛小学校。

建物改修で2909万6千円、駐車場整備の外構工事で596万5千円、合わせて3506万1千円を追加するものでした。質疑の中で、議員からは「お金をかけずに使うことはできないのか」「3500万円をかければ新しい福祉館が建つのではないか」との指摘があり、それに対して町からは「金額をかければ新しいものは建つが、旧熊牛小学校を誰も使わない状態にしたくない。何らかの方法で活用したいということをも前提に地域の方と話をして合意を得

ている。屋上の防水工事に約500万円、駐車場の工事に約500万円かかる」との答弁がありました。

工事請負契約の締結  
 清水中学校大規模改修にかかわる3件を可決

- ◆建築主体工事  
 契約金額 4億1904万円、契約の相手方 田村・ナリタック特定建設工事共同企業体
- ◆機械設備工事  
 契約金額 9417万6千円、契約の相手方 三洋・川端特定建設工事共同企業体
- ◆電気設備工事  
 契約金額 5546万8800円、契約の相手方

牧野・Eサポート特定建設工事共同企業体

物品の取得

議場音響設備更新一式と総合行政システム機器を可決

◆議場音響設備更新一式  
 契約金額 1252万8千円、契約の相手方 ベスト電器清水店

◆総合行政システム機器  
 契約金額 4741万2千円、契約の相手方 アイトシステム(株)帯広支店

### 平成27年度 補正予算

#### 一般会計

(1回目の補正)

9,538万円増

総額82億8,538万円

#### 一般会計の主な補正(歳出)

- ◇旧下佐幌小学校防風柵更新工事 163万円の増額
- ◇いきいきふるさとづくり寄附報償 1,350万円の増額
- ◇社会福祉協議会補助金 427万円の増額
- ◇臨時福祉給付金 1,140万円の増額
- ◇子育て世帯臨時特例給付金 316万円の増額
- ◇再生可能エネルギー量調査、利用構想策定委託料 1,034万円の増額
- ◇農地耕作条件暗渠排水工事 3,626万円の増額
- ◇体育館天井・壁補修工事 716万円の増額



第1委員会室の音響設備も更新。

なお、議場音響設備は、役場庁舎建設当時から設置されているものであり、老朽化のため更新するものです。

# 行政報告

## 北海道バイオエタノール株式会社十勝清水工場の現状について

5月18日に北海道バイオエタノール株式会社の飛田社長と高木専務が来庁され、「昨年、農林水産省から補助金の打ち切りが申し渡され、その後も存続に向けた努力をしてきたが、事業継続していける見込みが立たなく、会社を整理する方向で事務を進めることにした。結果として、地元清水町の皆さまに大変なご迷惑をおかけし、申し訳ない。」と陳謝があった。

なお、職員については、全員ホクレンの系列会社に異動し、施設の活用については未定とのこと。

## 御影保育所での給食時に発生した異物混入について

5月30日土曜日に、御影保育所の給食で提供した肉じゃがが煮の中に使用済みのホッチキスの針2本が混入しているのを職員が発見した。その日のうちに保護者の方にお詫びと今回の事情を説明し、児童の様子を見守っていただくようお願いしていたところ、6月3日の早朝に保護者の方からおむつ交換の際にホッチキスの針1本が便に付着していたとの連絡があった。

御影保育所を利用されている多くの方にご心配とご迷惑をおかけしたことに心からお詫び申し上げる。今回の異物混入を重大に受け止め、原因を究明し、再発防止と安全管理の徹底に努める。

## 農作物の生育状況等について

3月の好天により雪解けが進み、5月の連休には、てん菜の移植、馬鈴薯の植え付けが順調に終了したが、5月に度重なる強風が発生し、移植を終えたばかりのてん菜、アスパラ、大豆、小豆に被害が及び、補植や蒔き直しなどの作業が行われた。

デントコーンや豆類の播種作業は、平年より2日から3日早い進捗状況となっている。

主な作物の6月1日現在の生育状況は、大豆は「良」、てん菜も「良」、牧草は「やや良」、秋まき小麦は「良」となっており、4月から5月の好天により順調な生育となっている。

第3回定例会で可決（承認）した

## 条例の一部改正

※すべて地方税法等の一部改正によるもの。

### ●町税条例等の一部改正（専決処分）

土地にかかる固定資産税等の特例措置を3年延期。  
軽自動車税のうち二輪車等の新税率適用を1年延期。

### ●町税条例等の一部改正

マイナンバー制度運用に伴う規定の整備。  
住宅ローン減税適用期限の延長。  
ふるさと納税ワンストップ特例の創設。  
固定資産税のわがまち特例導入拡大。  
軽自動車税の燃費性能に応じたグリーン化特例導入。  
たばこ税の旧3級品特例税率の段階的廃止。

### ●国民健康保険税条例の一部改正

中間所得層の税負担軽減のため、課税限度額の引き上げ。

- ・医療分 51万円→52万円
- ・後期高齢者支援金分 16万円→17万円
- ・介護納付金分 14万円→16万円

低所得層の税負担軽減措置拡大のため、算定における所得基準額（被保険者数に乗すべき金額）の引き上げ。

- ・5割軽減対象世帯 24.5万円→26万円
- ・2割軽減対象世帯 45万円→47万円

## 請願の審査

件名	提出者	審査委員会	結果
義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善、就学保障充実など2016年度国家予算編成における教育予算確保・拡充に向けた意見書に関する請願について	日本労働組合総連合会北海道清水地区連合会	総務文教 常任委員会	採択
地方財政の充実・強化を求める意見書に関する請願について	日本労働組合総連合会北海道清水地区連合会	総務文教 常任委員会	採択

## 意見書の提出

次の意見書は、第3回定例会において審議の結果、可決され、議会はこれを関係行政庁に提出しました。

- ◆義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、「30人以下学級」の実現をめざす教職員定数改善、就学保障充実など2016年度国家予算編成における教育予算確保・拡充に向けた意見書
- ◆地方財政の充実・強化を求める意見書

# 町政を問う!

# 一般質問

6月定例会では9人の議員が理事者に対し、21項目の一般質問を行いました。なお、質問と答弁は要約してあります。

## 地方創生対策

桜井崇裕 議員

地方創生に基づく総合戦略について、ビジョンの作成にあたっては人口減少対策等と共に、住民の声・提言をどのように組み込むのか。住民は後で参加してもらえばいいという考えではなく、地域や人が輝き、住民が納得できる中長期的な真のビジョンを作成してもらいたい。

高薄町長  
まちづくりの計画(第5期総合計画)を作成する際に、住民の100人懇談会や各団体、各層から様々なご意見をいただいた。今回はそれにプラスして多くの意見をいただくことを考え、有識者との懇談会を開いて意見をいただくことや、アンケート調査を実施する。

御影畑総の  
再点検と見直し  
口田邦男 議員  
御影畑総事業は長い年月をかけて完了し、我々は受益者としてその恩恵を受けてきた。道路、河川、農業用水、基盤整備等が行われ、災害に強い、生産力の高まる農地へと生まれ変わった。しかし、規模拡大や專業化が進み、問題が生じるようになってきた。次の点について、将来に向かっての改善策を伺う。

高薄町長  
①基盤整備 ②農業用水  
③橋 ④取付道路  
基盤整備は、平成28年度に道管畑地帯総合整備事業として松沢地区、草地整備で清水地区、29年度には松沢地区と同様、美曇地区に事業着手する予定。他の地区も順次継続して整備を進めていく。

旧校舎の今後の  
活用は  
口田邦男 議員  
旧羽帯小学校、旧下人舞小学校は現状どうなっているのか。今後の活用について、地域との話し合いをしているのか。

旧下人舞小学校においては、公募により企業が入ったが後に撤退した経緯がある。床下が危ないこともあり、閉校施設等活用検討委員会で協議していきたい。



老朽化が進み、活用が難しい旧下人舞小学校。

## JA、商工会、行政一体化のまちづくり

口田邦男 議員

今までも、JA、商工会と共にまちづくりが行

われているが、距離感が感じられる。イベントの実施や道の駅計画など、まちづくり全般について三者が一体となり、関係を強固なものにしていく必要があると思うがいかがか。

高薄町長

町の独自性とともに、一体化することは非常に大切である。互いの持ち味を生かしながら、地方創生の一つの柱として、イベントや流通を含めた中で町の経済循環をどのようにしていくか意見を交換していきたい。

### 国保財政運営の道移管の影響

木村好孝 議員

医療保険法の成立で、2018年度に国保財政運営が道に移管され、道は町の一般会計からの繰入れを含まない「標準保険料率」の目安を町に示し、町はこれに基づき道



2018年度から国保の財政運営が、市町村から都道府県に移管される。

が決めた「納付金」を納める仕組みとなる。保険税の「平準化」につながるのではと懸念されているが、「医療費適正計画」の医療費の抑制・削減とあわせ、国保税の値上げや徴収強化など、町民（被保険者）への影響について、現時点で考えられる町の対応を伺う。

高薄町長

標準保険料率は国から道に正式な情報が伝わっていないので、現時点では答弁が非常に難しいが、保険税の負担増は急激にはできないため、段階的な税率改正が必要になる。2018年度までの実施の中でできる限りの情報をつかみ対応していく。

### 国保制度「改革」に伴う国の財政支援は

木村好孝 議員

国は支援拡充として2015年度と2017年度にあわせて3400億円の支援計画を行うとしているが、市町村の繰入れ総額3500億円にも及ばない額に全国知事会は1兆円の財政支援で国の責任を果たすよう求められている。

支援拡充の財源として、中小企業の協会けんぽの国庫補助の削減、後期高齢者医療制度保険料の特例の原則廃止の「国費の肩代わり」がなされる。特例廃止は町の高齢者の50・66%に影響があるが、考えと対応を伺う。

高薄町長

現役世代の人口減少により高齢者にもそれ相応の負担を求めているが、得ない状況なのは事実であり、町は当然国の方

針を無視することはできない。しかし、保険料の急激な変動は避けなければならぬことは国も承知しており、経過措置を経て、国民に理解を得られるようにしていかなければならない。

町としても負担の軽減をどうするかこれから協議していく。

### 医療内容改正の町民への影響

木村好孝 議員

入院給食療養費の自己負担が1食260円から2倍近い460円となり、1か月1万8千円の高額療養制度による負担軽減対象外の負担増となり、紹介状なしの大病院受診時の5千円から1万円の定額負担の義務化や、混合診療の全面解禁につながり、安全性が指摘される「患者申し出制度」が実施される。地域や住民の医療状況などを十分に

把握しない中で患者への負担増に対する意見を伺う。

高薄町長

地域によって状況が違うということを強く訴えていかなければならない。医療難民が出てくることや、患者の申し出による混合診療の解禁により、保険外診療が増えることで個人負担が増え、所得の違いで診療に差が出ることを心配している。

いずれにしても国の制度であり、町が変えていくのはなかなか難しいことなので、注目しながら検討を加えていきたい。

### 人口減少対策における本町の取り組み

鈴木孝寿 議員

政府が進めるまち・ひと・しごと創生法の成立に伴い、昨年末より各自治体が人口減少対策に乗り出すこととなった。本町においても、人口減少

対策本部を設置し役職員全体で検討が今後行われると報告をいただいている。

この対策本部の設置に伴い、以下2点につき町長の考えを伺う。

- ①対策本部立ち上げにおいて、全体が共通して取り組むべき重要課題の設置の必要性について。
- ②想定される人口減少になった場合の、使用料や税金等の収入数値予測について。

高薄町長

①全体が共通して取り組む課題の中から重要課題を選出して、将来のあるべき姿を想定していかなければならない。農業の維持・継承、雇用の創出など、仕事ができる環境を整えていく構想を作り上げなければ人口減少対策は成り立たない。

②まだ数値は出していない。25年後は約6800人になると予測されており、例をあげて数値を出すことは可能である。

## 地域コミュニティの再生

鈴木孝寿議員

町内会・農事組合は、生活上重要な役割を担っている。その戸数は100戸を超えるところもあり、減った戸数が増加に転じることは考えにくい。地域の自主性を重視する中で行政として直接的な役割を担うことに難しさを感じるが、地域の福祉を考えると、上では無視できない。自主的な特性を踏まえつつ、今後の減少を鑑み、町内会の合併や連携のための仕組みづくりについて町長の考えを伺う。

高薄町長

小さな自治体づくりとして、市街地であれば東西南北に分け、町の業務の一部に組み込み、職員を配置して地域コミュニティができないか考えた

ことがある。

東西南北でなくても近隣の町内会と共同で清掃活動や花見、福祉活動などができないか、ある町内会に持ち掛けたこともあるが、そこは自主性を重視していることから現場職員が積極的に関わっていなかったこともあり進まなかった。

高齢者が増えている中、ある程度の母体がないと活動できないことから、町内会の集約が必要であり、この課題を人口減少問題を含めた中で投げかける必要がある。

## 奨学金制度の復活

鈴木孝寿 議員

行財政改革において奨学金条例は事実上新規募集が凍結されている。しかし、進学を志しながらも経済的な事情等によりその進路の選択に限りが出てしまうことは、未来

を担う子どもを地域あげて育てるといふ本町の風土にそぐわないと考える。

この条例の凍結解除の予定はあるか。

三澤教育委員長

他の奨学金制度が充実したことを背景に、本町の危機的財政状況から、平成17年度以降は新たな方への貸付けは実質凍結の状況が続いている。

今後の取り組みについては、奨学金制度が拡充されてきている状況から、喫緊の課題を解決することを優先順位に考え、検討していきたい。

## マイナンバー制度

北村光明 議員

本町における「マイナンバー制度」の現状と認識を伺う。

- ①制度の概要とその対応は。
- ②この制度の利便性は。
- ③年金データの流出等が

あったが、安心・安全の確保をどう行うのか。

④町民への周知をどう行うのか。

高薄町長

①マイナンバーは本年10月から、住民票を有する全ての国民一人ひとりに通知され、平成28年1月から、社会保障、税、災害対策分野の中で情報の管理が行われる。

本町においても制度に対応するために、システムの改修・整備を進めている。

②年金や福祉などの申請書類の添付が減り、年金の未払いや不正受給等がなくなる。適正な課税が実現する。

③特定個人情報収集の禁止や罰則の強化、情報の分散管理、アクセスの記録、通信の暗号化など様々な対策を講ずる。

④新聞チラシ折り込みも含め、更に広く周知していく。町民の方が不安にならないよう情報の発信に努める。

## 子育て支援の現状

北村光明 議員

第2子以降の保育料を無料とした後の利用者及び保育現場の状況について伺う。

①入所者が増えているが、子育て支援の状況はどう改善されたか。

②保育所運営に必要なマンパワー（人的資源）は確保されているか。職員数と一人当たりの担当割合の変化を伺う。

高薄町長

①第2子無料化は保護者の方々から大変喜ばれており、第1子の年齢上限を小学3年生まで上げたことでより多くの方が恩恵を受けている。

②常設保育所全体では調理員を除き、正職員17名、臨時職員20名で対応している。順次正職員に切り替えていく計画であり、マンパワーはその中で確

保していく。代替職員もあり、不十分な体制はない。

国が定める職員の配置基準は0歳児が3対1、2歳児が6対1、3歳児が15対1、4歳児以上が30対1である。最近では発達支援の対象児が増えていることから、職員の加配（基準より多く配置すること）に努めている。



楽しい親子遠足♪ (中央公園)

## 町職員の再任用

北村光明 議員

「清水町職員の再任用に関する条例」の運用に関して伺う。

- ①再任用された職員の事例及び人数は。
- ②再任用制度の現状は。

③再任用を希望する場合、その窓口と手続き方法は、④まちづくりへの町民参加をサポートするため、これまでの経験を生かす再任用は考えられないか。

**高薄町長**

①再任用された職員はいない。

②管内においては19市町村中8町村が定年退職者を採用しているが、若者の定住促進や職員の年齢構成を考えると、なかなか踏み切れない。

③窓口は総務課であり、取扱要綱を制定して手続きすることになる。

④管理職だった人が部下になることへの心理的な負担と、定年後も引き続き役場に勤めることに対する住民感情を考慮しなければならぬ。

**議会報告会のシヨック**

北村光明 議員  
先般、「議会報告会と

町民との意見交換会」を開催したが、清水地区は職員を除いた一般町民の参加者はわずか1名であった。

まちづくりの基本条例に基づく住民参加も少ない状況は、「二元代表制」の町政全般が問われており、主権者である町民が主体の町政となっていないことを意味する。「何も変わらない」と見放されたのかとの思いもある。

住民参加が少ない原因はどこにあるのか。

**高薄町長**

時代が変わったからなのか、昔は忙しくても出てきてくれた。情報は簡単に得られるし、何かあれば直接言えるということなのか、選挙の投票率の低さにも表れている。

テーマを絞った方がいいのか、参加者を年代別に区切った方がいいのか、時間帯はいつがいいのか、参加者が少ない原因を取り除いて工夫しなければならぬ。



参加者が極めて少なかった清水会場での議会報告会。(5月26日)

**清水町におけるシテイ・プロモーション**

北村光明 議員

人口減少化社会の到来、

地方創生の時代に、「魅力ある清水町」の実現のため、観光資源再生や地場産品販売といった個別的な取り組みだけではなく、地域のブランド化と成果の検証が必要。それらを統合・総合的にとらえた「シテイ・プロモーション(自治体宣伝戦略)」が必要だと思いがいがか。

**高薄町長**

本町はとても魅力のある町だと言われているが、

観光面が弱いので重点的にやっていきたい。都市圏で開催する北海道フェアへの参加、ふるさと納税の推進、東京にある北海道のアテナシヨップの活用など、ふるさと回帰や移住定住促進事業を通じて進めていきたい。

**道の駅設置構想**

高橋政悦 議員

現在、十勝管内では11町村14か所の道の駅が設置されているが、国道2本、日勝峠、高速道路のインターチェンジを有する本町には設置されていない。

そこで町長には、町民の間で広がっている、アストロポウル跡地への商業施設進出に併設して道の駅ができるとの噂の真偽および構想としてどのような形態が理想か、財源として見込めるものは

あるか、四季塾の提言発表で出された牛の駅とのシヨイントベンチャー(提携)の可能性も含めて伺う。

**高薄町長**

アストロポウル跡地には大型商業施設2店が計画されており、併設して道の駅をつくる考えはない。

構想として、どんな形態の道の駅が良いのか考えが至っていない。できれば出資者を募り、町が支援する方法が望ましい。財源は公設の場合、総合整備事業を含めた起債で資金調達できる。

牛の駅との提携も含め、既存の道の駅から脱しないと魅力あるものにはできない。

**町道の改修**

佐藤幸一 議員

本町は早くから道路の舗装整備に取り組んでき

た。その結果、産業の振興や救急時における緊急車両の走行など、町民生活の向上に果たしてきた役割は大きい。

しかし、古いところは舗装整備から40年以上が経過しており、交通量の増加からか、道路の損傷箇所も多く、一日も早い対策が求められる。

①町道の現状に対する町長の認識を伺う。

②町道の改修計画を策定し、年次的に改修する考えはないか伺う。

**高薄町長**

①町道は昭和48年頃から急速に整備が進み、その後は補修を繰り返している。傷みが激しい状況になってきているのは事実であるが、財源的に大きな改良・補修ができない状況であり、緊急度の高いものから整備してきている。

②総合計画に盛り込んでおり計画的に進めている。本年度は主要幹線道路の路面調査を行い、調査・

点検内容を基に順次改修・修繕していく。

### 町内会組織の運営改善策

原 紀夫 議員

町内会等組織は少子高齢化により人口減少が進んでいる今こそ、お互いに協力していくことが何よりも重要である。

①町内会等の統合はなぜ進まないのか。

②未加入世帯に対し、どのような策を講じているか。

③職員の新規採用等が多くなってきたおり、町民との交流面からも地域担当制を考えては。

④役員のみならず手不足が活動を停滞させている面もあるが改善策は。

⑤活動の支援や助言を行う専門部署の設置や退職職員を採用する考えはないか。

高薄町長

①自主的な活動の中での



年度始めに行われている町内会長会議では、町からの連絡事項伝達のほか、様々な意見や要望を聴取している。

の負担にならないため、気軽に職員を活用できる良い方法を考えたい。  
④町内会が抱えている問題はどこなのかを抽出して、どういった協力体制をとれば町内会活動がうまくいくのかを共に考えたい。  
⑤現在は町民生活課の住民活動係が担当している。地域おこし協力隊の活用や住民活動のボランティア制度を考え、できるだけ財政の負担にならないようにしたい。

### 空き家対策特別措置法

原 紀夫 議員

全国820万戸に及び空き家対策の特別措置法が全面施行された。本町の対応や対策について伺う。

①本町の空き家戸数や状況は把握されているか。  
②地域の空き家を登録して情報提供する「空き家

バンク」の取り組みが盛んに行われているが、本町も取り組むのか。  
③空き家の所有者に撤去や修繕を勧告できるようになったが、該当する空き家はあるのか。

④町民から苦情のある工場跡地等は、今後どのような対応になるのか。

高薄町長

①現在、空き家の戸数は100戸前後で推移している。今年度は廃屋解体撤去事業によりすでに5件の解体が決まっている。  
②本町は早くから空き家・空き家情報を提供している。バンクというかたちではないので、今後条例を定める中において検討していきたい。

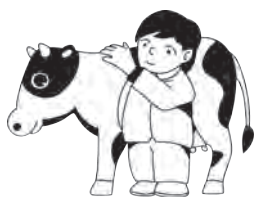
③現在、該当する空き家はない。勧告は条例を設けなければできないので、できるだけ早く考えていきたい。  
④町や消防から幾度か話しているが強制的にはできない。今後は条例を制定する中で指導していく。

### 基幹産業である農業を守るための施策

安田 薫 議員

地域の基本は、家族経営農業である。しかし、TPP、異常気象、消費者の求める安心・安全な農作物の生産、大規模化が進み、農村地域の生産と生活の両面から課題が山積みである。執行方針でも語られているが、具体的に施策を伺う。

①担い手対策として町をあげての婚活を考えると。  
②バイオマスプラントの計画は。  
③多面的機能支払事業(農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るための地域の共同活動を支援する事業)の効果に行政の施策をプラスし、



をプラスし、

農村の環境美化を考えては。

高薄町長

①本年中に町ぐるみの青年交流会を行うことでJAと商工会も同意している。近いうちに再度打ち合わせ会議を開き、婚活に取り組んでいく。

②家畜の糞尿対策と環境・有機農業の推進のために有効な方法だと認識している。

経済産業省の事業を活用してバイオマスプラントの可能性を調査していきたい。

③この事業は保全管理の支援制度であり、環境美化も含めて農村地帯を美しく、環境を良くしていくというもの。

面積も広く多忙であることから地区によっては委託が多いが、皆さんでやることで農村地区の結束力が生まれ、友好の輪が広がり、助け合いが生まれる効果がより一層あることから、この事業を進めていきたい。

## 人口減少を食い止める得策を

安田 薫 議員

自治体が地方創生関連に使える自由度の高い新たな交付金について、やる気のあるところとないところの配分に差をつける旨を表明し、2015年度中にまとめる人口減少対策の5か年計画「地方版総合戦略」の内容に応じて配分額に差をつける方針を示しているが、

本町の対応を伺う。

高薄町長

町を挙げて取り組むには目標をしっかりと定め、心一つにして取り組みなければなりません。

住んで良かったと思える住みやすい町にするには、若手職員の考えを取り込むことが必要。新たなアイデアを出してもらい、積極的に取り組んでもらう。

様々な方の意見を聞いて町民との懇談に臨みたい。議員の皆さんにも意見を出してほしい。

## 閉会中の委員会活動

### 総務文教常任委員会

企業と連携したまちづくりについて  
防災活動に対する支援について  
学校給食における危機管理について  
その他所管に関する事項について

### 産業厚生常任委員会

公営住宅の現状と今後の取り組みについて  
農作物の生育状況について  
その他所管に関する事項について

### 議会運営委員会

議会の運営とその諸規定について  
議長の諮問に関する事項について

## 清水町議会報告会と町民との意見交換会を開催しました

参加者数は清水地区（5/26）が6名、御影地区（5/27）が17名でした。いただいたご意見や提言はただ今各委員会で検討・調査中ですので、今回はアンケート結果のみお知らせします。（回答者数19人）

- Q1 性別 男性19人 女性0人 Q2 年齢 40歳代4人 50歳代3人 60歳代5人 70歳以上7人
- Q3 開催を何で知りましたか。（複数回答）  
議会だより9人 お知らせ版6人 新聞折込チラシ13人 ホームページ2人 その他1人
- Q4 「議会報告」の内容はどうでしたか。  
分かりやすかった9人 どちらともいえない6人 分かりにくかった3人 無回答1人
- Q5 「議会報告」の時間はどうでしたか。  
長かった4人 ちょうどよかった10人 短かった3人 無回答2人
- Q6 「質疑応答、意見・提言等の聴取」の時間はどうでしたか。  
長かった2人 ちょうどよかった9人 短かった6人 無回答2人
- Q7 「議会報告会と町民との意見交換会」を評価しますか。  
評価する9人 どちらともいえない8人 評価しない1人 無回答1人
- Q8 「議会だより」を読んだことはありますか。  
よく読んでいる16人 関心あるものだけ読んでいる2人 読んでいない0人 無回答1人
- Q9 清水町議会のホームページをご覧になったことはありますか。  
よく見ている6人 時々見ている4人 見たことはない9人
- Q10 清水町議会の本会議や委員会を傍聴したことがありますか。  
よく傍聴している1人 時々傍聴している9人 傍聴したことはない6人 無回答3人
- Q11 清水町議会議員に期待することは何ですか。（複数回答）  
町政の監視機能9人 具体的な政策の提言13人 町民との対話9人 議会情報の発信7人  
その他1人
- Q12 お気づきの点、ご意見ご要望

◆町民の参加が極めて少ないことは残念。◆このような会を企画していただき、個人的に議会と町民との関係が良くなると思います。来年も出席したいと思っていますので、来年も開催されることを願っています。◆意見交換会開催については評価しますが、開催の目的ポイントをしっかり整理し開催に臨むべきだと思います。今回の会議資料を前もってホームページに載せてみては。◆飲み物くらいは提供してほしい。◆意見と言いながら、単なる文句ではいけない。



# 委員会 レポート

委員会活動として、閉会中に行った所管事務調査の結果内容を、各委員会は第3回定例会において、次のとおり報告しました。

## 総務文教常任委員会 調査報告

### ① 防災対策の現状と今後の展開について ② 人口減少対策の新たな発想について

#### ① 防災対策の現状と今後の展開について

清水町地域防災計画等について担当課から説明を受けた。

本町は河川洪水、土砂災害を想定して避難勧告等の基準が定められているが、防災無線の老朽化等、伝達方法に課題が残る。

職員の初動マニュアルは、実行性を高める。方策の模索が重要である。

要援護者支援プランは、情報の収集と迅速に活用できる体制が構築され、状況に応じた支援が策定されている。

緊急避難所は町内に20か所を指定しているが、冬期間の除雪、耐震、

非常電源の確保等に課題を残している。

#### ② 人口減少対策の新たな発想について

対策本部の設置までの経緯と、国と道の基本的な考え方の説明を受け、係長以下職員の様々な意見を聞き取った。

議会における今後の対応に意義深い調査となった。

## 産業厚生常任委員会 調査報告

### 観光資源再生について

町の様々な魅力を発掘し、道東・十勝へ訪れる観光者の玄関口として位置する清水町の観光資源の再生とともに、情報発信拠点の整備に向けて策定された観光資源再生基本ビジョンについて、担当課から説明を受けた。

町の様々な魅力を発掘し、道東・十勝へ訪れる観光者の玄関口として位置する清水町の観光資源の再生とともに、情報発信拠点の整備に向けて策定された観光資源再生基本ビジョンについて、担当課から説明を受けた。

町の様々な魅力を発掘し、道東・十勝へ訪れる観光者の玄関口として位置する清水町の観光資源の再生とともに、情報発信拠点の整備に向けて策定された観光資源再生基本ビジョンについて、担当課から説明を受けた。



人口減少対策専門部会の係長以下職員の意見の聞き取りを行った。



観光資源再生基本ビジョンについて概要の説明を受けた。

まちづくりができるのではないか。

【産業雇用】農業の雇用増大と後継者育成に努めることで、安定した経営と雇用の増加に寄

とにしている。

ととしての利点を生かした方法を検討して欲しい。清水を通過する時に必ず寄りたくなるようなトイレの設置や、人材育成を目的とした四季塾で出されたまちづくりに対しての意見や構想も十分検討すべきとの意見も出された。

交通の利便性を最大限生かした方法を取り入れながら、多くの町民から支持される実効性の高いビジョンとされることを期待したい。

## 議会のうごき

5月

26日  
総務文教常任委員会

26日・27日  
議会報告会と町民との意見交換会

6月

2日・9日  
議会運営委員会

16日・18日・19日・23日  
第3回議会定例会

16日・18日  
総務文教常任委員会

18日  
産業厚生常任委員会

19日  
全員協議会

7月

2日・27日  
全員協議会

7日  
全道町村議会議員研修会（札幌市）

17日・27日  
議会運営委員会

23日  
新任議員研修会（帯広市）

27日  
第4回議会臨時会

8月

3日  
議会運営委員会

4日  
新篠津村議会視察来町

11日  
産業厚生常任委員会

## 議会を傍聴してみませんか。

開会  
9月8日  
(火曜日)

9月定例議会は9月8日に開会を予定しています。

傍聴は町議会での審議の状況を直接ご覧になることができる身近な方法です。傍聴の手続きは、受付簿に住所・氏名を記入するだけです。気軽においでください。

☆清水町議会のホームページには、各委員会や全員協議会の会議録も掲載しています。ぜひご覧ください。

## 臨時議会 DIGEST ダイジェスト

第4回臨時会 【会期：7月27日】

## 公営住宅清和団地の 建物取得を可決

【買取金額】2億3,251万2,200円 【取得先】秋島建設グループ

## 平成27年度 補正予算

### 一般会計

(2回目の補正)

2,055万円増

総額83億593万円

### 一般会計の主な補正(歳出)

◇いきいきふるさとづくり基金積立金	501万円の増額
◇道徳教育推進校事業報償	23万円の増額
◇学校水泳プール建設事業実施設計委託料	1,821万円の増額

## 議会 TOPICS トピックス

### 北海道 町村議会議長会 議員研修会

7月7日、札幌市において、北海道町村議会議長会議員研修会が開催され、中央大学名誉教授今村都南雄氏からは『地方議会を取り巻く最近の動向』、テレビ朝日コメンテーター川村晃司氏からは『これからの政局・政治動向』と題した講演が行われました。当町からは議員全員が参加し、講師の話に熱心に耳を傾けていました。



## 編集後記

清水町の夏、小麦がぐっと色づきを見せ、収穫を目前に控えた7月18日、みかげふえすていばるを皮切りに、翌週の清流まつり、さらには大花火大会とイベント盛りだくさん。

議員たちも各会場に足を運び、町民のみなさまの熱気とパワーにふれながら、その思いをどのようにかたちにしていくかを考えるよい機会となっています。

今回お届けする議会だより第142号は、6月定例会、第4回臨時会、9名の一般質問を中心に編集しました。内容や構成についてお気づきの点がありましたらご意見をお寄せください。

議会運営委員会委員 高橋 政悦

清水町議会ホームページ <http://www.town.shimizu.hokkaido.jp/gikai>  
清水町議会 e-mail [gikai@town.shimizu.hokkaido.jp](mailto:gikai@town.shimizu.hokkaido.jp)